

家庭科

主任：久間 典子

(1) 今年度の目標

- ①人の一生を考えるとという視点から生活に関する知識と技術を総合的に学習させる。
- ②興味・関心をもって生活課題を工夫改善する態度を育成する。

(2) 主な取り組みの計画

- ①生徒の生活力の伸長を視野に入れた授業。
- ②生活を学ぶことに興味を持てる教材の工夫と改善。
 - ア中学校での既習事項や他教科との関連を図り、生徒の実態にあわせた教材の選定。
 - イ効果的で効率のよい視聴覚教材の取り入れ。
 - ウ『模擬体験や作業学習』の取り入れによる自ら気づき学ぶ姿勢の育成と、生徒同士の情報交換。
- ③学習過程を大切にしたい問題解決学習『ホームプロジェクト』
特に今年度はHR教室での知識学習や作業学習の効率化をすすめたい。

(3) 授業アンケートの結果と分析

①の取り組みについて

生徒の現在の生活に取り入れられること、応用できることをできるだけ細かくその都度授業の中で話題にしている。また、大学生や社会人の一人暮らし生活をテーマにした学習のすすめ方をしている。

現在、学習した内容を少しでも自分の生活に取り入れたり、試したりしている生徒は77%。特に食生活83%、経済35%、被服(洗濯や手入れ)25%分野に多い。全体の8%の生徒は興味もなく、自分の生活にも関心を示していない。

②の取り組みについて

常に社会、理科などの教科の内容を把握し、関連を図れるよう授業を構成している。中学校での既習内容は学校により差があるので、入学後のアンケートで把握に努めている。今年は、経済分野は中学校での既習内容を省略をして学習をしたが、生徒の55%が習っているが高校でも授業をした方がよいと答えている。

被服分野では現在の生徒の生活、社会の変化から内容を絞り、基本のみの簡単な授業内容で実施したが、16%の生徒はもっと深い内容を希望していた。

新校舎に移り、必要な時に手近かに効率よく視聴覚機器が利用できるようになり、経験の多少で理解に差が出ることが少なくなった。ただ、廊下側前方が黒板が見えにくい。

食物、保育分野での実習は94%、95%の生徒が現在の実習がよいと答えている。その他の分野での実験実習、作業学習などは簡単なものが経済と住居に2つ取り入れることができたのみである。

③の取り組みについて

問題解決学習は学習過程を学習するのみに終わり、実際の調査や検証活動まで発展できなかった。

(4) 今年度の成果と課題

毎年少しずつ授業内容や教材に新しいものを入れようと努力はしているが、とにかく学習内容が広範囲かつ大量で手に合わない状態である。実験も計画をしていたものが時間不足で実施できなかった。

多くの生徒すべてに満足な授業はとてもできない。どうしても集団全体としての最大効果を考えることになるが、家庭科では仕方ないと思う。

今年度は授業に対する生徒の満足度が高く驚いている。また、多くの生徒が生活に関心を持とうとしており、とても嬉しい。素直な生徒が多く、授業のし甲斐もあるが、平日頃の行動を見ていると決して生活力は高くないと思う。生徒の実態をあらゆる角度から把握し、目標を明確にし、授業計画を練り上げていくことが今後も続く本校の家庭科の課題であろう。